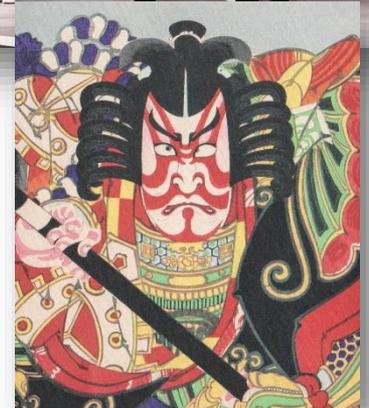
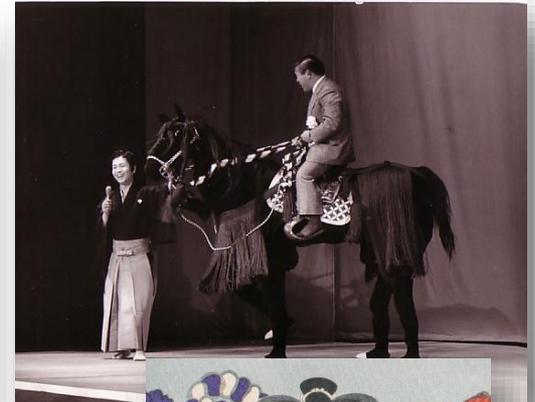


和文化講座

● 歌舞伎講座

令和5年6月25日（日）和文化教育学会



関西・歌舞伎を愛する会
代表世話人 川島靖男
和文化教育学会 理事

目次

- 歌舞伎の歴史・・・1～6
- 上方歌舞伎と江戸歌舞伎・・・7～18
- 歌舞伎を楽しむ知恵・・・19～25
- 歌舞伎の社会的意義・・・26～31
- 七月大歌舞伎のご案内・・・32～34

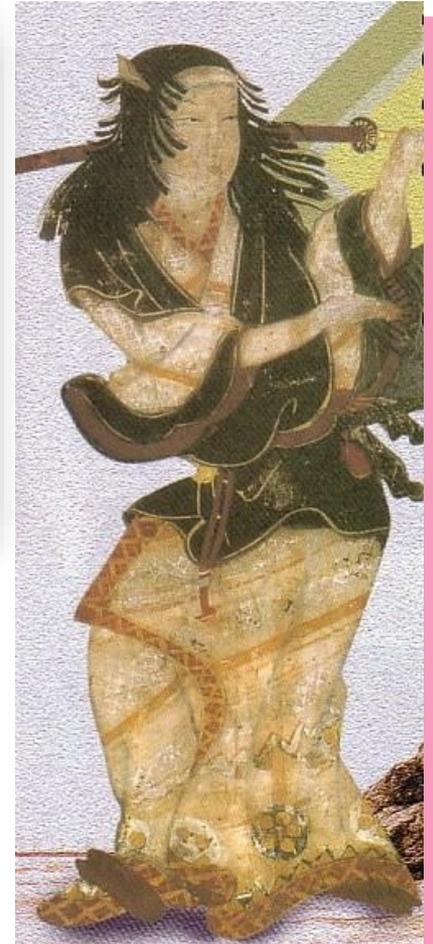
- 関が原の合戦(慶長5年・1600)が終わり平安がもたらせた京都は開放感に溢れていた。
- 京都は政治の首都であると同時に、文化や経済など日本の中心。最大の人口を有する都市。
- 慶長8年(1603)、出雲の巫女「阿国」が五条河原や北野神社(現、北野天満宮)などで男装して「かぶき踊」を披露。
(この年、徳川家康が江戸幕府を開府)
- 多くの芸能者がやってきたが、阿国は圧倒的な支持を受けた。男の役者が演じる、茶屋女と遊ぶ姿を官能的に踊る。
- 異国風のきらびやかな衣裳。首にはロザリオ。派手な作りの太刀、妖艶な姿は「かぶき」そのもの。
- 楽器は四拍子(笛・小鼓・大鼓・太鼓)、三味線は、まだ使われなかった。
- 慶長12年(1607)2月20日、阿国は江戸城で徳川家康、大名の前でかぶき踊りを披露。2月20日は、歌舞伎の日。

● 歌舞伎の誕生

歌舞伎は女性がつくった
出雲の巫女・阿国歌舞伎



四条大橋北東角
阿国の像



南座横に、歌舞伎発祥の碑 (1)

● 女歌舞伎(遊女歌舞伎)

風紀の乱れで、禁止される



- 阿国のかぶき踊りの評判をまねて、遊女屋の経営者は、たくさんの遊女を舞台に立たせた。
- 新しく渡来した三味線を使い、華やかな群舞によるショー。
- 風紀の乱れを理由に、寛永6年(1629)に女歌舞伎を禁止。
- 幕府は男女が舞台に立つ事を禁止。(寛永7年、1630年)

● 若衆歌舞伎

美少年による歌舞伎も風紀の乱れで禁止



- 遊女歌舞伎の禁止によって、クローズアップされたのが、前髪をつけた美少年の「若衆歌舞伎」
- 平安時代より公家や僧侶の間で、男性による同性愛が流行。武士の間にも広まり、衆道(しゅどう)と言われた。
- 男色を好んだ三代将軍、家光もファンであったが、風紀上の理由から、家光の死を待って承応元年(1652年)に禁止された。

● 野郎歌舞伎、女方の芸が生まれる。

男性が理想的な女性の役を演じる



- 舞台に立つ役者は、若衆のシンボルである、前髪を剃り落とす事、写実芸をする事を条件に再開。売色的要素を排除。**(野郎歌舞伎と言われた)**
- 承応2年(1653年)以後、20年ほどが野郎歌舞伎の時代。本格的な演劇へ進む良い結果をもたらした。
- **ストーリーを持った写実劇へ発展。役者の技芸向上。女性役も美しいだけでなく品格が重要に。次にくる元禄歌舞伎の成熟と大成を準備する重要な時代となった。** (4)

● 女方(女形) (おんながた) 世界を魅了 女方の美

坂東玉三郎さん・・・大人の男が女になるのは下手をすれば、下品になりかねません 細かい技術と大変な修練、そして何より品格が必要です。女方を極めるということは、命がけで取り組まないと出来ません。



上村吉弥さん

- 男が女装するのではない。
女方=女では決してありません。
- 観客は、男であると分かっているからこそ、女方の魅力が生まれてくる。
- 男性が理想とする女性を演技力で表現する。
- 女形とも書き、おやまとも呼ぶ。

● 元禄歌舞伎、飛躍的な展開

- 町人文化の華がいつせいに咲き誇った元禄時代。(1688～) 歌舞伎も飛躍的な大展開をとげ、**今日の、歌舞伎の基礎ができた。**
- 4幕続きなど、複雑な構成。俳優の兼業から独立した専業の狂言作者の出現。
- **写実的なせりふ本位の演劇、義理と人情など人間の姿を描く。近松門左衛門(1653～1724)、上方の名優、坂田藤十郎(1647～1707)の活躍。(和事)**
- 江戸では、武家社会を反映し、荒々しい勇壮活発な演目が喜ばれ、初代市川團十郎が活躍。(荒事)
- 徳川時代、265年の文化は・・・2つに分けると。
 - ① 元禄時代中心の前期は、上方が優位。
 - ② 文化(1804～)、文政(1818～)時代中心の後期は、江戸が優位。
(江戸開府から200年が過ぎていた)



● 歌舞伎(伝統)は、新しい

● 歌舞伎の語源は ⇒ かぶき者。傾く。(かぶく)

世の中を斜めに構えている者

常識はずれの格好。異様な風体、斬新

歌舞伎は、時代の先端を行く、新しいものを持っている。

● 歌舞伎は、後で付けた当て字。

歌 ⇒ 音楽

舞 ⇒ 舞踊

伎 ⇒ 演技

総合舞台芸術である



野崎村、お光・澤村藤十郎

- 江戸時代の大阪の人口、約40万人。武士は、約8,000人という説も。江戸に比べ非常に少ない。
- 京都の人口は、約35万人。

●上方歌舞伎

(かみがたかぶき)

- 商人や庶民中心の上方社会。台詞中心の女性的な、線の細い、つっころばしと言われる、色男が恋に落ちる様子や、おかしみの要素を加味。
- 荒事の様式性に対して、和事と言われる写実性を重視。
- 江戸歌舞伎が家の芸の継承を重視するのに対し、創意工夫、良いのであれば朝礼暮改も。



和事の創始者

● 初代 坂田藤十郎

(正保4年・1647～宝永6年・1709)

- 63歳で亡くなるまで30年間活動主として京都の舞台に出演し、時には大坂の舞台にも出た。
- 上方を代表する名優と言われる。
- 藤十郎の演技は、誇張した表現ではなく自然な感情をもとにした飾らない芸であった。
- 元禄歌舞伎の黄金期は、近松門左衛門と坂田藤十郎の名コンビが大きく貢献した。
- 2005年12月、南座で中村鴈治郎丈が231年ぶりに坂田藤十郎を襲名。(9)

● 和事(わごと)とは。

- 立役(男役)の演技のうち、やわらかい演技をする役柄 またはその演技。
- 江戸で受けた荒事に対照的なのが和事。
- 男女の愛などを、やわらかく優美な写実芸で演じる。
- 和事の創始者といわれる坂田藤十郎は、上方で大人気を博した。

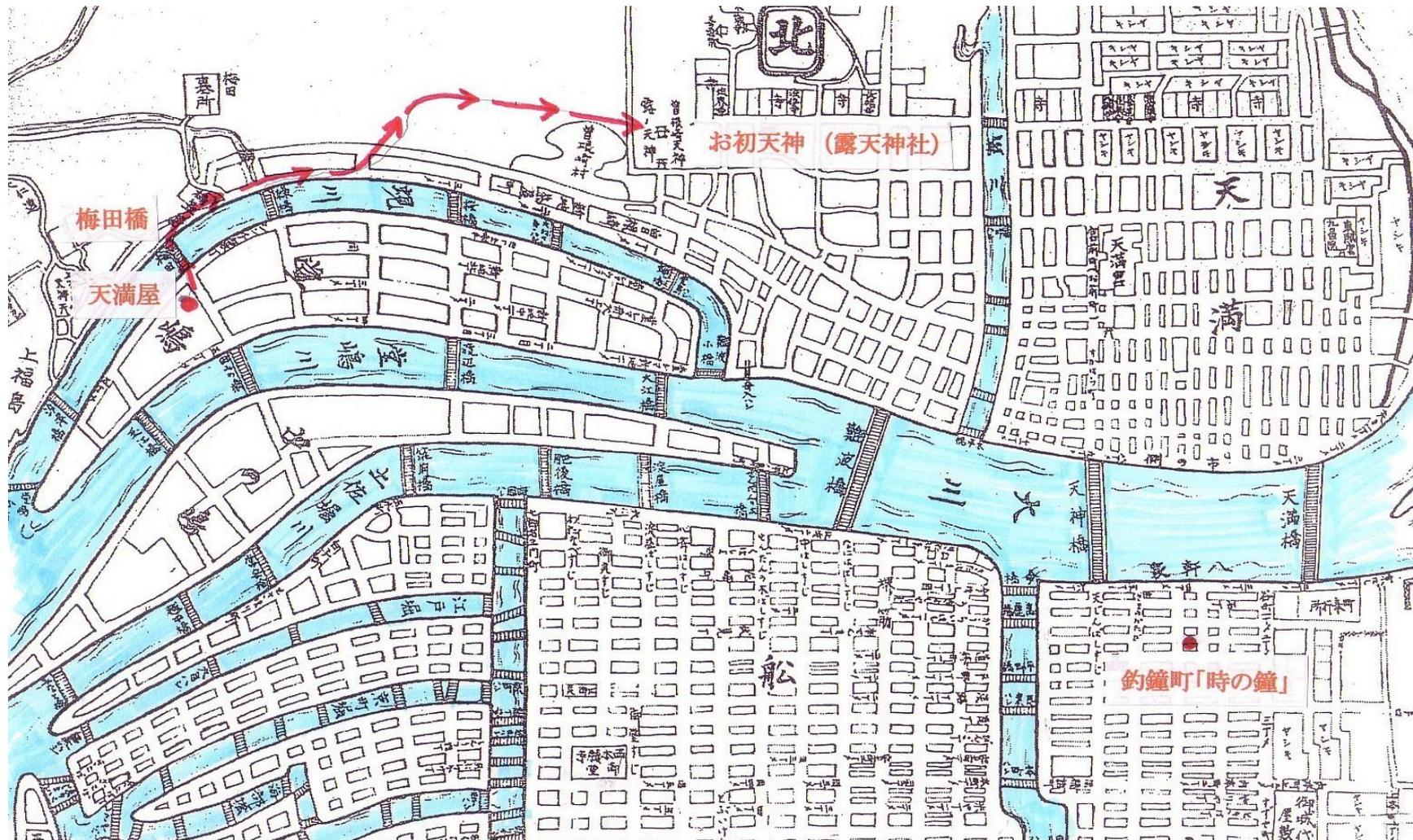
● 曾根崎心中

- 大ヒットを飛ばした、近松門左衛門作。
- 元禄16年(1703)4月7日の夜に、堂島新地、天満屋の遊女「お初」19歳と、醤油屋、平野屋の手代「徳兵衛」25歳が、曾根崎天神の森で心中。
- 近松門左衛門(51歳)は、1ヶ月後の5月7日、道頓堀、竹本座で人形浄瑠璃「曾根崎心中」を上演。大ヒットし竹本座の赤字を解消する。宝永2年(1705)に竹本座の座付作者に迎えられた。
- この作品は、人形浄瑠璃の約束事を破ったものでした。それまでは、歴史的な英雄や王朝のヒロインたちを主人公にするという決まりがありました。観客と同じ時代を生きる庶民を描くことはありませんでした。
歌舞伎では世話狂言で庶民の生活を描いていましたので、それを人形浄瑠璃に取り入れたという新しさがあります。
- 美化された心中ものが多く上演され、心中が流行。幕府は心中を禁止。
- 情死したものは葬式を出させない。さらし者にする。しかし、いっこうに心中は減らなかった。それ程、二人の死は町民に共感を呼んだ。



● お初・徳兵衛、天神の森までの道行ルート

梅田橋を越え堤防にさしかかったとき、遠くから鐘の音が聞こえました。(七つ・午前4時)釣鐘町からの鐘で、直線で約3キロ強になります。



● お初・徳兵衛が、最後に聞いた鐘が現存します。

七つの時が六つ鳴りて、残る一つが今生の鐘の響きの聞き納め・・・。



- 大阪府中央区釣鐘町2-2-11 釣鐘屋敷跡に保存。
- 徳川期、初代大坂城主、松平忠明が、大坂の本格的街づくり。
- 寛永11年7月25日(1634)、三代将軍徳川家光大坂城入城。租税免除(銀179貫)。「楽市楽座」を許可。
- 松平忠明城主に続き、将軍家光も大坂の恩人。将軍家光に感謝。報恩の気持ちを含めて釣鐘をつくる。
- 寛永11年9月完成。1日12回、2時間おきに撞かれた鐘の音は市中隅々まで響き渡った。
- 4回の火災をくぐりぬけ、現在も、8時、12時、日没の3回、コンピューター制御で時を知らせている。

時の鐘

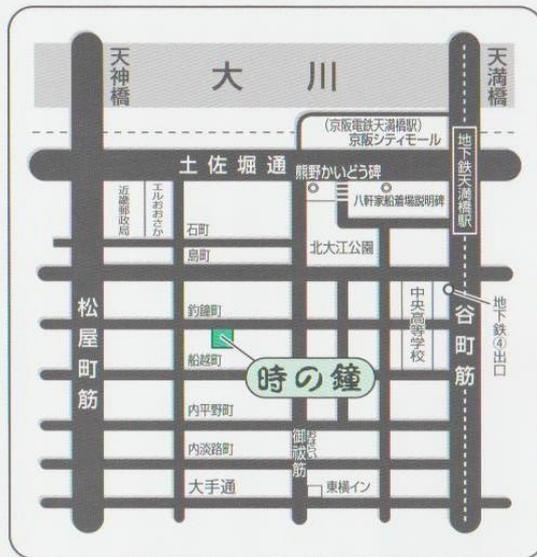


1634年(寛永11年) 高さ: 1.9m
 大坂町中時報鐘として設置 直径: 1.1m
 おおさかまちじゆうじほうしょう 重さ: 3トン

『時の鐘』は1985年の復活の際に建てられた
 コンクリート製の近代的な鐘楼とともに里帰りを
 はたした。現在は『大坂町中時報鐘顕彰保存会』
 によって運営されている。

所在地: 大阪市中央区釣鐘町2-2-11
 (釣鐘屋敷跡: 元 住友生命釣鐘倶楽部)

「時の鐘」エリアマップ



1985年(昭和60年) 釣鐘屋敷跡へ里帰り

中央区釣鐘町(元 住友生命釣鐘倶楽部敷地)に里帰りする。
 地元(釣鐘町)では住友生命の好意と賛同を得て 昭和58年
 から釣鐘屋敷跡への里帰り運動が進められた。 地元の熱意に
 応え、大阪府は活用についての有識者の意見を参考に「歴史的
 経過からみて、釣鐘屋敷跡へ移転することが適切である」との
 提言を踏まえ、昭和59年10月里帰りさせることを決定した。



大坂町中時報鐘顕彰保存会
 会長 梅本 憲史

『時の鐘』問い合わせ先

運営委員長 山田利彦 TEL 06-6943-1571
 梅本のりふみ事務所 TEL 06-6945-0122

<大坂町中時報鐘 鐘楼計画趣旨>

4度の火災をくぐりぬけ、変わらぬ音色を持つという名鐘をたたえ、官民の力の輪によって5度目の鐘楼に里帰りするという意味で、屋根を5つの輪とする。

自主、自立、自由、活力、創造という大阪町人の精神を表現している。

この塔は時計の長・短針が0時(スタート)を指している形とする。高さは、宝暦9年に建てられた高樓の高さ9間にちかんで約16mとする。屋根に設けられた8本の峰によって360年前の音色が響き渡り大阪の文化振興が限りなく、四方八方全世界に広がることを望みたい。



鐘楼設計管理
 株式会社 IAO田中設計
 鐘楼建設施工
 西松建設株式会社



株式会社 IAO田中設計

〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目1番3-2305号
 (大阪駅前第3ビル23階)
 TEL代表(06)4798-1601 FAX(06)4798-1602

自然と話しています。
 人を見つめています。



毎日ふれあう技術
 西松建設

関西支店
 〒540-0035 大阪市中央区釣鐘町2-4-7
 TEL.06-6942-1173 FAX.06-6947-0744



心が住むところ。

一六三四年(寛永十二年) 七月

徳川三代將軍家光が三郷の地子銀を永代免除された記念に惣年寄等が評議して釣鐘をつくることを決定。

寛永十一年甲戌閏七月二十五日、三代將軍家光上洛の御二條城より淀に至り、輕舸を浮かべて大坂城に入った。この日三郷惣年寄等相率いて將軍を今市(旭区今市町)に迎へ、樽三荷懸節を献じ祝賀の意を表したところ、悉く城中に召されて各々紋服三領を賜はり、且明朝を以て大坂町中地子銀赦免あるべきに付、各町毎に年寄及び町人数輩大手の芝生に出頭すべく、高麗橋に金鷹の出づるは即ち赦免の證なる旨が達せられた。よつて翌朝未明より惣年寄以下二三千人の者麻の袴にて大手門外に参集した。懸て金鷹の櫓上に現はる、や、一同歓呼し、間を作て感涙したといふ。

当時三郷の地子銀數は箇年百七十八貫九百三十四匁余であつて、この巨額の地子銀を永代免除されたのであるから、郷民が感激したのも尤もなことである。茲に於て惣年寄等評議して後世子孫をして、永くこの恩恵を忘れしめぬ為、釣鐘を鑄て時刻を報ずるに如かずとなし、南組惣年寄安井九兵衛、天満組同中村左近右衛門の兩人惣代となり、同月二十八日將軍帰路の迹を追て伏見に至り、既に發駕せんとする老中に謁し願書を上つた。右の願意は將軍歸府の後許可せられ、特に鑄造並びに鐘樓普請の料として銀八十貫目を下賜された。依つて鐘銘を谷町筋寺町西側禪宗大仙寺の龍巖和尚に請ひ、鑄造場を野原の川端にて運漕の便ある二つ井戸附近に設け、之が鑄造を天満裏門大工町の鑄物師釜屋宗左衛門に託すること、且下賜の銀をば「普請入費に相償ふは冥加恐多し」とて釣鐘の中に鑄込むことにした。

〈東區史第四卷より抜粋〉

同年 九月 完成

鐘の銘文は谷町筋寺町西側(現在谷町九丁目)の大仙寺の龍巖和尚が書き、開眼供養は一心寺の在坐上人が導師となつて盛大に行つた。

一六六〇年(万治三年) 焼失

一七〇八年(宝永五年) 焼失

一七二四年(享保九年) 焼失

一七五九年(宝歴九年) 火の見櫓完成

一八三七年(天保八年) 焼失

一八七〇年(明治三年) 釣鐘屋敷の「時の鐘」廃止 鐘樓撤去 釣鐘は近くの長光寺に預けられる。

鐘樓のそばに高さ九間(約十六メートル)の望火の高樓を造り監視に努めたといわる。



時報は大阪城内から打ち出す号砲に変わった。初めは朝昼夕の三回、のちには午砲だけとなった。「お城のドン」である。それは周辺約十五キロメートルまで聞こえた。しかし町中鐘の跡継ぎがもう一つあつた。明治五年十二月十五日から、市内各所の火事半鐘が時刻を告げている。同年十一月末の布告で、新暦から太陽暦になり十二時制を採用する。この時から半鐘は火事だけ。時刻は太鼓になる。

一八七二年(明治五年) 十一月九日

石町二丁目に開校した江畔小学校校内に移動。

一八七五年(明治八年) 十一月

本町橋東詰松屋町筋(現在の大阪商工会議所)の府立大阪博物館に移して長く保存することになった。

一九二六年(大正十五年) 十月

大阪府庁新築の際、屋上に鐘樓を建て懸けられる。

一九七〇年(昭和四十五年) 二月二十日

大阪府有形文化財工芸品の第二号に指定される。

曾根崎心中と鐘

三百年の時空をこえて
今も寂滅為樂の響き

遊女お初と醤油屋手代の徳兵衛の情死を題材に近松門左衛門が書いた浄瑠璃「曾根崎心中」の最後の道行の場面は、次の有名な書き出しで始まる。(此世の名残 夜も名残 死にに行く身をたとふれば あだしが原の道の霜 …… あれ数ふれば 曉の七つの時が六つなりて 残る一つが今生の 鐘の響の聞納め寂滅為樂と響くなり)

払曉の曾根崎・天神の森で実際に心中があつたのは、元禄16年(1703年)4月7日。それからちょうど300年。2人が末期に聞いた同じ鐘が今も鳴っているのをご存じだろうか。

大阪・天満橋近くのビル群の中にある「時の鐘」。江戸初め、幕府から大坂の地代が永代免除された祝いに町人が資金を出し合つて鑄造した。

2時間おき1日12回撞かれた鐘の音は市中隅々まで響き渡り、人々の生活はその音で回つたという。「天下の台所」とにぎわつた都市でも、江戸は二百数十年、そういう時代だった。

〈読売新聞記事より〉

現在の運営状況

■ 日々の打鐘

朝8時・12時・日没の3回コンピューター制御で自動的に時を知らせる仕組みになっている。

※清掃は保存会婦人部が担当。

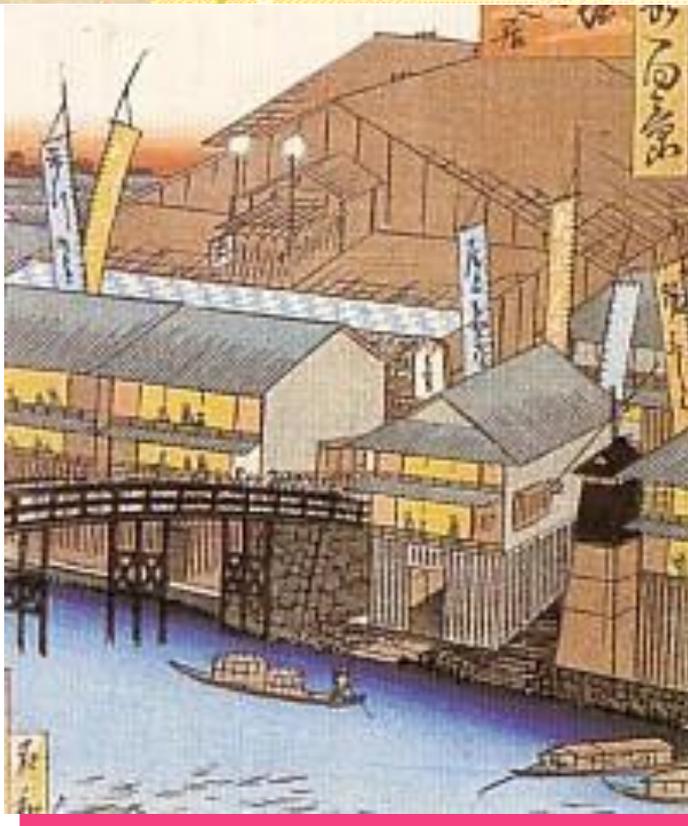
■ 6月10日、時の記念日行事実施

保存会のメイン行事として、地元園児・児童も授業の一環として参加、もちつき や もちまきに歓声が沸き上がる。

■ 7月25日、天神祭船渡御に釣鐘供奉船参加

■ 12月31日大晦日PM10時30分より除夜の鐘打ちを実施

コーヒーやお酒を振る舞い、新しい年を全員のカウントダウンで迎える。

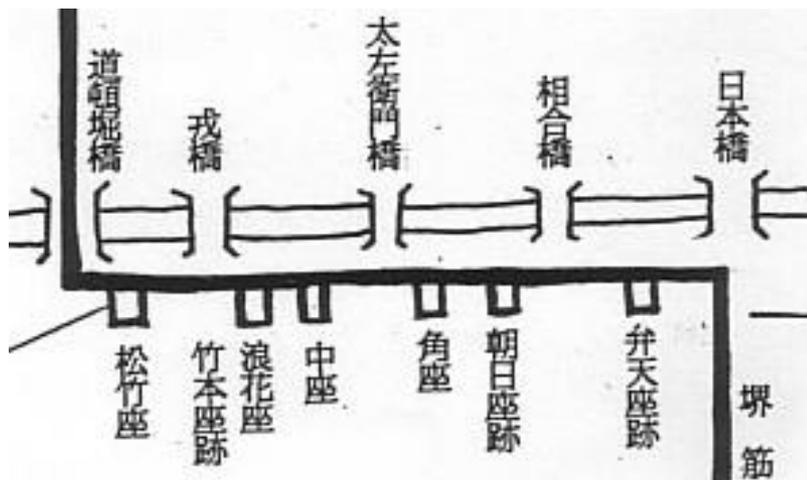


● 道頓堀五座・日本一の芝居町

慶長17年(1612)、成安道頓が私財を投げうって着工。南堀と呼ばれていたが、道頓の功績をたたえて道頓堀となった。

芝居と遊所が道頓堀に移転し、以降、芝居の街として発展する。

- **角座**・古来角の芝居と呼ばれ道頓堀の中心にあった。1758年並木正三により廻り舞台ができる。
- **中座**・慶安5年(1652)年に始まり、中の芝居といれ数多くの名優を生んだ。平成11年10月閉館。
- **浪花座**・オールナイト興行の夜芝居で賑わう。全盛期の初世中村鴈治郎の拠点となった。
- **弁天座**・古くは豊竹座のあったところ。後に竹田の芝居とよばれ、道頓堀文楽座、朝日座と名を変える。関西で歌舞伎を育てる会第一回公演を開催。
- **旧朝日座**・角丸の芝居。道頓堀東映になるが平成19年4月閉館。 (15)





●菅原伝授手習鑑・車引

●江戸歌舞伎 (えどかぶき)

- 武士中心の社会を反映し、荒々しい、線が太い、誇張的な扮装。仇討ちものを好む風土。演技に特徴がある、荒事を家の芸として伝える。(スーパーマン、鉄腕アトム)
- 家の芸を重視。

- 江戸の人口は、100万人。世界一の都市。50万人が武士とその家族。50万人が庶民。
- 江戸市中には、武士の姿が多く見られた。
- 武士が、ほとんど見られない上方と違って、武士が多い江戸の街には、荒々しい雰囲気。



矢の根、曾我五郎

● 荒事

(あらごと)

- 荒々しい演技をする役柄や作品の事。
- 超人的な力を持っているスーパーマン。
- 初代市川團十郎が創演。武士階級中心の江戸人の気風に合い大当たりした。

● 隈取(くまどり)

- 顔に描く隈や使う色によって、役柄を誇張して表現する、歌舞伎独特の化粧法。

- 顔面の筋肉や血管を誇張したと見られている。

- 紅(べに)は、正義。

- 藍(あい)は、悪。

- たいしゃ(茶)は、妖怪
変化に用いられる。

- 初代市川團十郎が荒事を創始。
二代目團十郎が確立。

- 二代目團十郎の時には、すでに隈取が完成していた。

- 隈取は、50種類ほどある。

(18)





● 黒衣(くろご) 透明人間

- 黒い衣裳を着て俳優の演技を手伝う役や衣裳。

黒 ⇒ 暗い ⇒ 見えない ⇒ 無

- 透明人間。舞台にいてもいないという暗黙の了解(約束事)

- 雪の場面では

白い雪衣(ゆきご)

- 海、河では、青い水衣(みずご)



● 野崎村の 両花道

向こうは川

お染、母の船

手前は土手

久松の駕籠

● 花道 (はなみち)

- 客席左後方から、舞台下手までのびている道。
- **登場人物の出入りに使用。常設の花道を本花道という。**
- 客席右後方から舞台上手までのびている道を仮花道という。
- ハナ(祝儀)を贈る人が通るとか、花のような役者の道だからという説があるが、よく分からない。

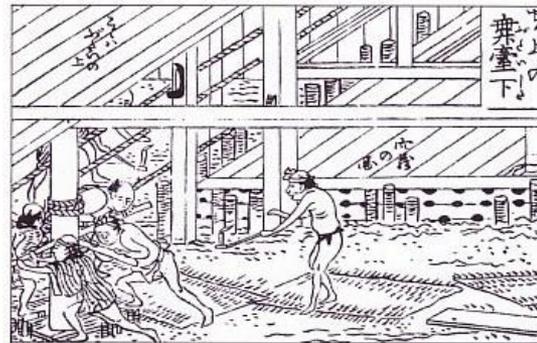


● 廻り舞台

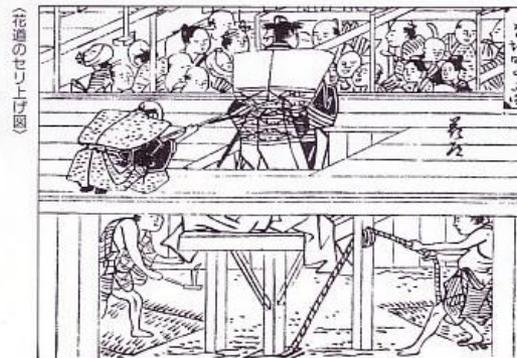
宝暦8年（1758）大坂の狂言作者、並木正三がコマからヒント（世界初）奈落で人力で廻す道頓堀、角の芝居で使用



金丸座、廻り舞台のカ石



舞臺機構の新機軸（戲感訓圖）
〈せり上げの舞臺下図〉



● スツポン

花道にある小さなセリ

（上下する舞台機構）

役者がせり上がって、首を出す姿がスツポンに似ているところから

（普通の人間以外に使用・幽霊や妖怪変化など）（21）



(大向うの基本)

- セリフにかぶせない。
- 掛けるタイミング、間が大切。
出、見得、引っ込みなどで掛ける。
- 声の質も舞台に合わせるなど。

(大向うの効果)

- 舞台が一層盛り上がる。
- 役者が気持ちよく芝居ができるようになる。
- いいタイミングで決まると、観ている方も気持ちよくなる。

● 大向う (おおむこう)

観客席の役者

(舞台への参加)

- 舞台から見た向こう側 = **正面客席。**
- 大は極限の意。天井桟敷の事。
- 席は安価で、芝居好きが何回も通うのに好都合の席。
- その席から、役者に声を掛けた。(舞台を引き締める効果)
- 大向うをうならせる = **大衆の賞賛をあびるの意。**
- 関西には、初音会という大向うの会がある。 (22)



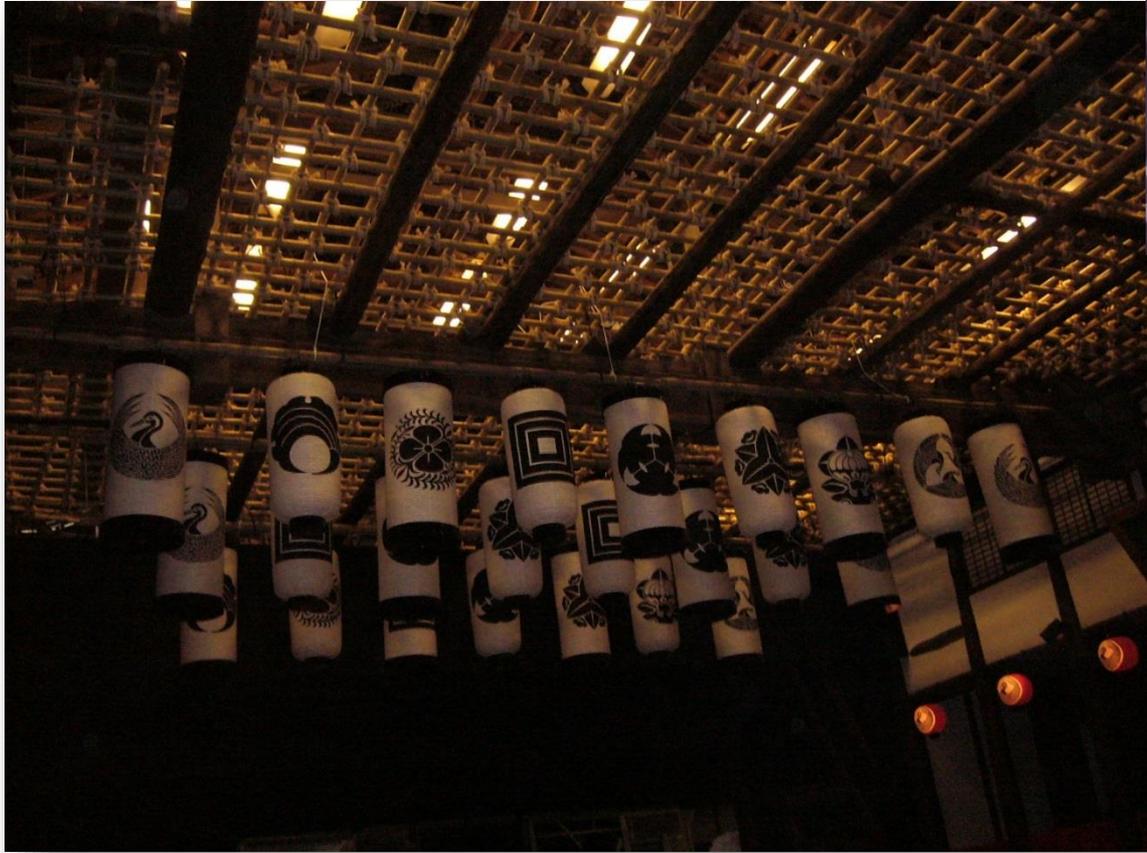
● 歌舞伎の音楽

(ツケ打ち)

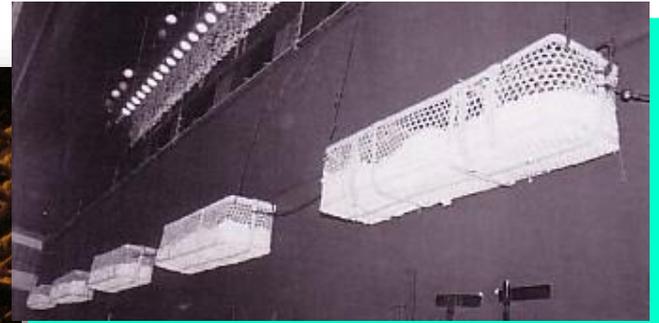
- 役者の演技に付けて(合わせて)、打つ効果音の事。音を付ける。
- 舞台の上手で、ツケ板と呼ばれる四角い板の前に正座し、役者の見得や動き、物の落下などに合わせて、物音を強調する役割を果たす。
- 役者がもっともかっこよく見える瞬間をさらに際立たせるための効果音。
- ツケの出来で芝居の印象を左右するほど重要。

(23)





四国こんぴら歌舞伎金丸座
ブドウ棚・・・裏方がブドウ棚
の上を歩いて客席に紙吹雪
などを降らしたりする。



● 雪音

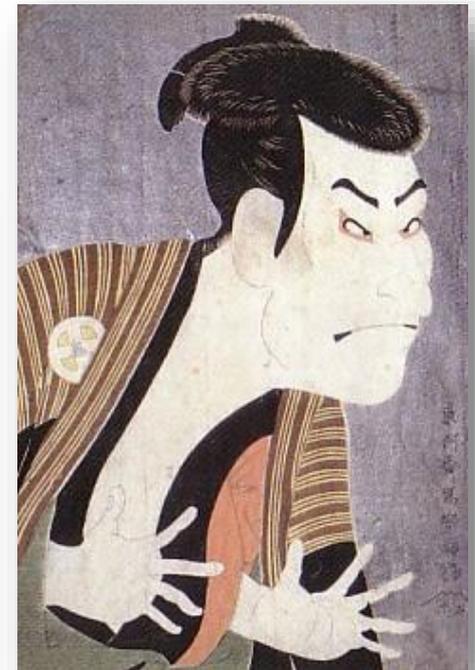
- 四角に切った和紙。
昔は、三角
- 雪籠という目の粗い籠を
引く。
- ドーン、ドーンという太鼓
で音もない 雪音を表現
する感性の豊かさ。



● 歌舞伎は、流行の発信基地・新商品開発も

役者が身につける衣裳の色や柄は、庶民に大きな影響を与えた

- **色の流行**・・・江戸紫(市川團十郎)、海老茶(市川海老蔵)、梅幸茶(尾上菊五郎)
- **キャラクター商品の開発**・・・團十郎煎餅・雷蔵おこし、仙女香(三代目瀬川菊之丞の白粉)、人気役者の紋が入った櫛、かんざし
- **役者絵はブロマイド**・・・興行前に大量に摺って入場券の積極的な営業活動(一枚、約400円、蕎麦一杯と同じ)
- **劇中CM**・・・「東海道五十三次 小田原外郎」
で外郎や旅行の宣伝
「助六由縁江戸桜」で三浦屋や
白酒売りのPRも
- **二代目市川團十郎はCMタレント
第1号**



● 江戸時代は・・・

- 世界の中でも最も豊かな社会。
- 265年間も続いた平和な時代。
- 日本人（庶民）が最も輝いていた時代。
（武士は教養と誇りはあるが貧しい生活）
- 江戸時代の素晴らしさを
再認識しよう。

● 庶民にとって歌舞伎とは何だったのか

(庶民は、教養高い、遊びの達人だった)

● 最高の娯楽

- ①芝居を知らないと、相手にされなかった。
- ②家で作った弁当(幕の内弁当)とお酒を持参し、安い平土間の升席で1日楽しんだ。
- ③豊かな商家は、前日の夜に屋形船で芝居茶屋へ。休憩と食事のあと観劇。幕間は芝居茶屋で休憩、時には轟頂の役者を呼び飲食。(お嬢さんは幕間ごとに着替え。結婚式のお色直しはここから)
- ④実際起こった事件がすぐに芝居化されるなど、今日のワイドショーや週刊誌と同じであった。

● 情報の発信基地(歌舞伎はメディアミックス)

- ①人気役者の浮世絵は今日のブロマイドであり、庶民が買った。
(版元、蔦屋重三郎は、写楽、北斎を育てた名プロデューサー)
- ②役者の台詞、衣裳、色彩などを庶民が真似をした。
- ③芝居の中に商品や店の宣伝を入れた。二代目市川團十郎はCMタレントの第1号。「外郎売」で小田原名物、外郎を宣伝。

● 江戸文化の頂点をなすのが歌舞伎であった。

● 幕府は歌舞伎をどう見ていたか

(質素・儉約・秩序・平和が、幕府の基本姿勢)

- 社会の秩序や良俗を乱すものとして、**歌舞伎と遊郭は、二大悪所として抑圧した。**
- 特に圧倒的に人気の高い歌舞伎は、庶民を扇動する力を持っていると思われ、監視下に置かれた。
- 劇場の許可制(シンボルが櫓) ⇒ 中村座・市村座・森田座・山村座に興行許可。
(山村座は、後に絵島生島事件によって取り潰され三座となった)
- **抑圧したが潰すことはしなかった。**庶民の反発が大きいし、非日常空間である、芝居小屋で日頃の不平不満が解消されれば社会の安定にもなり、大目に見た。
(大名や旗本にも歌舞伎ファンは多く、棧敷席の常連。大名屋敷での歌舞伎上演もあった)

● 江戸文化の担い手は庶民（町人）

（庶民が文化を作り出したり、担い手になるのは世界的に例がない）

● **平安時代の文化** ⇒ 貴族階級が中心

● **鎌倉・室町時代** ⇒ 武士階級 //

諸外国においても、文化は貴族階級のもので、庶民には無縁のもの。

● **江戸時代** ⇒ **豊かになった庶民が独特の文化を創造した。しかも、そのレベルは世界的にも高いものであった。その中心にあったのが歌舞伎であり、全てが詰まっていた。**

① 繁昌する貸本屋。西欧人は庶民が本を読むことに驚き

② 「寿司・蕎麦・天ぷら」は、ファーストフード

③ 俳句、川柳、連歌、将棋、囲碁、浄瑠璃、小唄、舞踊、園芸

④ 粋と思いやりの江戸しぐさ

⑤ 寺子屋は、今日のカルチャーセンター

⑥ 小袖の流行は、現代版オートクチュール

⑦ 歌舞伎は、多くの関連産業や街の繁栄にもつながる中心に。

芝居町は、アミューズメントパーク

● 歌舞伎を好きになる見方、楽しみ方



歌舞伎は、難しいものではありません。江戸時代から続く、大衆演劇です。気楽にお楽しみください。

- 役者を好きになる
- 絢爛豪華な舞台、衣裳などを好きになる
- 心が安らぐ邦楽(三味線・小鼓・大鼓・太鼓・笛など)を好きになる
- 宙乗り、早替わり、本水(本当の水)の舞台が好きになる
- 華やかな舞台、心を打つ演技、女形(方)の素晴らしさが好きになる
- 出し物の内容が好きになる、その他、自分に合った楽しみ方を見つけてください。(シネマ歌舞伎 ⇒ 歌舞伎の本公演へ)
- 世界に誇る伝統芸能、歌舞伎を知ることによって、豊かな心になり、一生の財産になることは確実です。
- 日本を知ることこそ、国際人のスタートです。

- 世界に誇る伝統芸能、歌舞伎を関西でもっと盛んにしましょう。
- 日本人が日本の良さを知りません。これでは、日本への誇りも出てきません。日本の素晴らしい文化を知ってこそ、国際人といえます。
- 歴史は連続です。先人から引き継いだ以上のものを創造し、次代に渡す義務があるのではと考えます。
- ご清聴ありがとうございました。皆様方の、ますますのご活躍を祈念申し上げます。
- 時節柄、お身体にご自愛ください。
ご意見や質問などがありましたら、ご連絡下さい。
携帯・・090-5165-1710
ykawa@hat.hi-ho.ne.jp

関西・歌舞伎を愛する会
代表世話人 川島靖男
和文化教育学会 理事



● 関西で歌舞伎を、もっと元気に・・・。

- 今から40年程前の大阪の歌舞伎公演は、火が消えたような大変厳しい状況でした。
- 歌舞伎公演というと、お客さんがそっぽを向かれるので、七月特別公演などという名称を使うほどでした。
- 中座では、昭和42年から48年までの7年間、歌舞伎公演は一度もなかった。
昭和44年から始まった新歌舞伎座での大阪顔見世も、不振のまま昭和52年の第9回で打ち切りとなった。
- 南座では、昭和39年から43年までの5年間、顔見世のみという、南座開場以来の事態を迎えた。
- 何としてでも歌舞伎を復興させたいという熱意で、昭和53年(1978)に、関西で歌舞伎を育てる会(現、関西・歌舞伎を愛する会)を結成しました。
- 昭和54年5月、朝日座で結成第1回公演を開催するとともに、55年ぶりに船乗り込みを復活させました。



中座

関西で歌舞伎を育てる会 記者発表



左から、大島靖大阪市長・小松左京、高畑敬一代表世話人・澤村藤十郎・中村勘三郎
(十七代目)・永山武臣松竹副社長・永田義男大阪民労協代表幹事

昭和53年12月20日、大阪、ロイヤルNCB会館

